

Title	市民意識の比較分析
Sub Title	Comparative analysis of civic attitudes
Author	小林, 良彰(Kobayashi, Yoshiaki)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2020
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>本研究は2017年度～2019年度にかけて、多様な選挙制度とその国の市民意識の関係を分析するものである。すでに2017年度～2018年度において小選挙区制を中心とする並立制によって選出される代議制民主主義の問題点について指摘した。したがって、2019年度は自治体レベルに焦点を当て、小選挙区制によって選出される首長と大選挙区制によって選出される市議会及び区議会、ならびに中選挙区制によって選出される県議会の組み合わせによる地方の代議制民主主義の実態を明らかにすることにした。このため、県及び市、区の各自治体関係者にヒアリングを行い、選挙時の選挙公報と選挙後の施策形成の合致度または乖離度について様々なケースをとりあげて明らかにした。このことは、政治学における主要な論点であるウェストミンスターデモクラシーかコンセンサスデモクラシーかという問いに一定の回答を示すことになる。さらに2019年度は市民意識を分析するために必要な意識調査の方法について、従来の面接調査の問題点を解消するために面接調査に代替し得る調査方法を開発して実験的に調査を行い、同設問による面接調査の結果と比較検討した。その結果、多重クォータに基づくサンプリングを行うことで面接調査に比べて回答の統計的有意な差異がなく、かつ即時性や調査経費の縮減を満たす調査方法を開発することができたと考えている。またこうした一連の研究の結果、得られたデータをオープン化することの意義についても公表した。</p> <p>This study analyzes the relationship between various electoral systems and citizens' attitudes. I have already pointed out the problem of democracy, which is elected by the parallel system centered on the single member district system in 2017 and 2018. Therefore, in 2019, I focus on democracy at the municipal level. Those are formed from governor or mayor elected by the single member district system and local assembly elected by multi member districts system. I have conducted interviews with local government officials at prefectures, cities, and wards. Then I clarified regarding the degree of agreement or deviation between the electoral promise and the policy formation of post-election. It gives a certain answer to the key question of political science: Westminster democracy vs Consensus democracy. In addition, I developed an alternative survey method to face-to-face survey by conducting an experimental survey. Then I compared results of the survey with the results of the face-to-face survey using same questions. As a result, there was no statistically significant difference between results of the survey by sampling based on multiple quotas and face-to-face survey. I also disclosed the significance of opening up the data obtained as a result of this series of research.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000007-20190012

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	法学部	職名	教授	補助額	300 (A) 千円
	氏名	小林 良彰	氏名 (英語)	Yoshiaki Kobayashi		
研究課題 (日本語)						
市民意識の比較分析						
研究課題 (英訳)						
Comparative analysis of civic attitudes						
1. 研究成果実績の概要						
<p>本研究は2017年度～2019年度にかけて、多様な選挙制度とその国の市民意識の関係を分析するものである。すでに2017年度～2018年度において小選挙区制を中心とする並立制によって選出される代議制民主主義の問題点について指摘した。したがって、2019年度は自治体レベルに焦点を当て、小選挙区制によって選出される首長と大選挙区制によって選出される市議会及び区議会、ならびに中選挙区制によって選出される県議会の組み合わせによる地方の代議制民主主義の実態を明らかにすることにした。このため、県及び市、区の各自治体関係者にヒアリングを行い、選挙時の選挙公報と選挙後の施策形成の合致度または乖離度について様々なケースをとりあげて明らかにした。このことは、政治学における主要な論点であるウェストミンスターデモクラシーかコンセンサスデモクラシーかという問いに一定の回答を示すことになる。さらに2019年度は市民意識を分析するために必要な意識調査の方法について、従来の面接調査の問題点を解消するために面接調査に代替し得る調査方法を開発して実験的に調査を行い、同設問による面接調査の結果と比較検討した。その結果、多重クォータに基づくサンプリングを行うことで面接調査に比べて回答の統計的有意な差異がなく、かつ即時性や調査経費の縮減を満たす調査方法を開発することができたと考えている。またこうした一連の研究の結果、得られたデータをオープン化することの意義についても公表した。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
<p>This study analyzes the relationship between various electoral systems and citizens' attitudes. I have already pointed out the problem of democracy, which is elected by the parallel system centered on the single member district system in 2017 and 2018. Therefore, in 2019, I focus on democracy at the municipal level. Those are formed from governor or mayor elected by the single member district system and local assembly elected by multi member districts system. I have conducted interviews with local government officials at prefectures, cities, and wards. Then I clarified regarding the degree of agreement or deviation between the electoral promise and the policy formation of post-election. It gives a certain answer to the key question of political science: Westminster democracy vs Consensus democracy. In addition, I developed an alternative survey method to face-to-face survey by conducting an experimental survey. Then I compared results of the survey with the results of the face-to-face survey using same questions. As a result, there was no statistically significant difference between results of the survey by sampling based on multiple quotas and face-to-face survey. I also disclosed the significance of opening up the data obtained as a result of this series of research.</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
小林良彰	社会意識に関する異なる調査方法比較-インターネット調査と面接調査の比較検討-	法学研究	第 92 巻第 4 号、2019 年 4 月			
小林良彰・廣瀬和彦	自治体施策と住みやすさ	地方財務	第 779 号、2019 年 5 月			
小林良彰・廣瀬和彦	財政健全化のための自治体施策	地方財務	第 781 号、2019 年 7 月			
小林良彰・廣瀬和彦	待機児童解消のための自治体施策	地方財務	第 783 号、2019 年 9 月			
小林良彰	サーベイデータによる日本の社会意識の分析: 面接調査に代替するインターネット調査方法の開発	日本政治学会	2019 年 10 月			
小林良彰	社会科学におけるデータ・アーカイヴの構築	日本学術会議オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会	2019 年 10 月			
小林良彰・廣瀬和彦	観光行政にかかる自治体施策	地方財務	第 785 号、2019 年 11 月			
小林良彰	政治への「参画障壁」をいかに乗り越えるか」報告「政治分野における男女共同参画の要因と効果	日本学術会議政治学委員会政治過程分科会公開シンポジウム	2019 年 12 月			
小林良彰・岸洋子	自治体広報活動とふるさと納税	地方財務	第 787 号、2020 年 1 月			
小林良彰	データ・アーカイヴ構築と社会科学のパラダイムシフト	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科	2020 年 1 月			
小林良彰・岸洋子	地場産業ブランド化支援の経済効果	地方財務	第 789 号、2020 年 3 月			